

敬老パスに関するアンケート調査報告書 概要版

平成16年1月

札幌市

問い合わせ先

保健福祉局保健福祉部高齢福祉課

担当：中田，山本 Tel 211-2976

目 次

I	調査概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査方法	1
4	調査期間	1
5	回収状況	1
II	調査結果	2
1	回答者自身のことについて	2
2	敬老パスの認知度	3
3	敬老パスについて	4
4	敬老パスの利用状況	12
III	資 料	17
1	敬老パス利用者の属性別の平均利用回数	17
2	敬老パス利用者の交通機関利用頻度グループ別に見た比較	19
3	その他の設問間クロス集計	23

I 調査概要

1 調査の目的

敬老優待乗車証（通称「敬老バス」）の今後のあり方について検討するための基礎資料とする。

2 調査対象

(1) 70歳以上調査

平成15年10月15日現在で、札幌市在住の70歳以上の市民の中から、2,500人を無作為抽出した。

(2) 70歳未満調査

平成15年10月15日現在で、札幌市在住の20歳以上70歳未満の市民の中から、2,500人を無作為抽出した。

3 調査方法

郵送による調査票の発送・回収とした。

4 調査期間

平成15年11月14日から12月1日までとした。

5 回収状況

回収状況については、表I-1のとおりとなっている。

表 I - 1 回収状況

	70歳以上		70歳未満	
	件数	割合	件数	割合
発送数	2,500	100.00%	2,500	100.00%
回収数	2,021	80.84%	1,439	57.56%
有効	2,020	80.80%	1,438	57.52%
無効（白票）	1	0.04%	1	0.04%

II 調査結果

1 回答者自身のことについて

表II-1 回答者自身のことについて（基本属性）

〔70歳以上調査〕

①年齢

	件数	割合
合計	2,020	100.0
70～74歳	841	41.6
75～79歳	540	26.7
80～84歳	393	19.5
85歳以上	228	11.3
無回答	18	0.9

②性別

	件数	割合
合計	2,020	100.0
男性	862	42.7
女性	1,125	55.7
無回答	33	1.6

③居住区

	件数	割合
合計	2,020	100.0
中央区	221	10.9
北区	284	14.1
東区	254	12.6
白石区	199	9.9
厚別区	139	6.9
豊平区	217	10.7
清田区	110	5.4
南区	200	9.9
西区	229	11.3
手稲区	148	7.3
無回答	19	0.9

〔70歳未満調査〕

①年齢

	件数	割合
合計	1,438	100.0
20歳代	208	14.5
30歳代	259	18.0
40歳代	288	20.0
50歳代	363	25.2
60～64歳	174	12.1
65歳以上	136	9.5
無回答	10	0.7

②性別

	件数	割合
合計	1,438	100.0
男性	586	40.8
女性	842	58.6
無回答	10	0.7

③居住区

	件数	割合
合計	1,438	100.0
中央区	157	10.9
北区	204	14.2
東区	182	12.7
白石区	131	9.1
厚別区	112	7.8
豊平区	163	11.3
清田区	92	6.4
南区	121	8.4
西区	169	11.8
手稲区	96	6.7
無回答	11	0.8

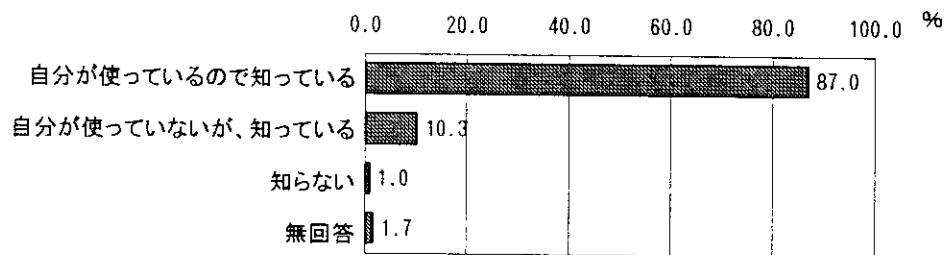
2 敬老パスの認知度

(1) 敬老優待乗車証（敬老パス）の認知度

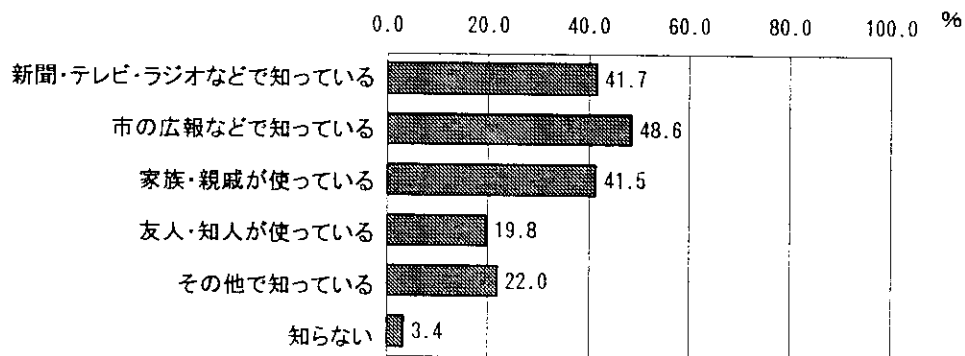
敬老優待乗車証（以下、「敬老パス」という）の認知度について、70歳以上調査では「自分が使っているので知っている」が87.0%、「自分が使っていないが、知っている」が10.3%、「知らない」が1.0%となっている。

一方、70歳未満調査では、「市の広報などで知っている」が最も高く48.6%、次いで「新聞・テレビ・ラジオなどで知っている」が41.7%、「家族・親戚が使っている」が41.5%となっている。

図II-1 敬老優待乗車証（敬老パス）の認知度
〔70歳以上調査〕



〔70歳未満調査〕（複数回答）



3 敬老パスについて

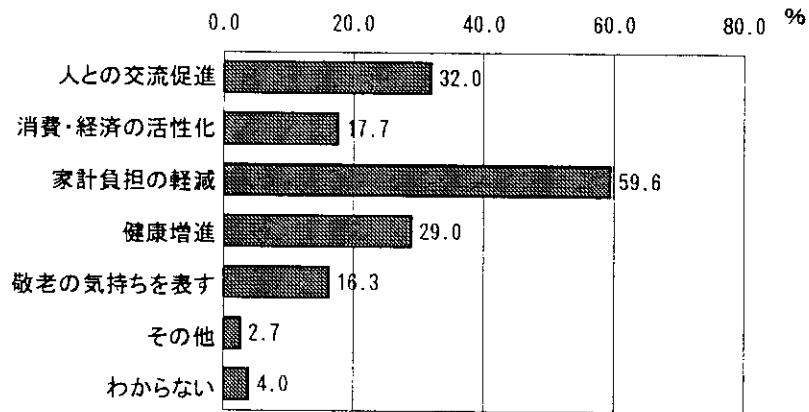
(1) 敬老パスが役立っていると思うこと

敬老パスが役立っていると思うことについて、70歳以上調査では「家計負担の軽減」が最も高く59.6%、次いで「人との交流促進」が32.0%、「健康増進」が29.0%となっている。

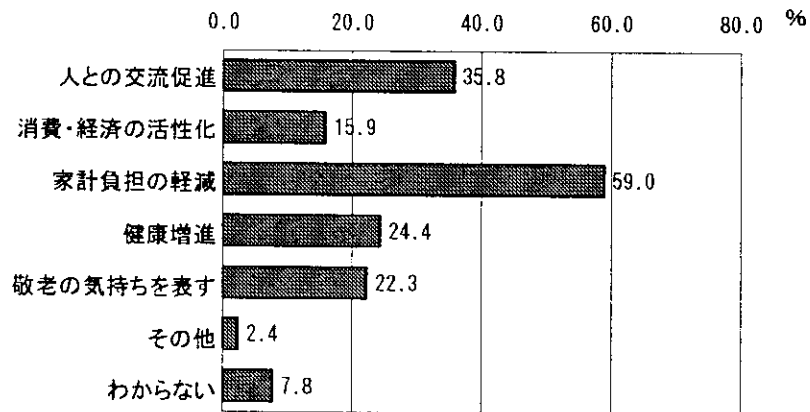
一方、70歳未満調査では、「家計負担の軽減」が最も高く59.0%、次いで「人との交流促進」が35.8%となっている。

図II - 2 敬老パスが役立っていると思うこと

〔70歳以上調査〕(2つまでの複数回答)



〔70歳未満調査〕(2つまでの複数回答)

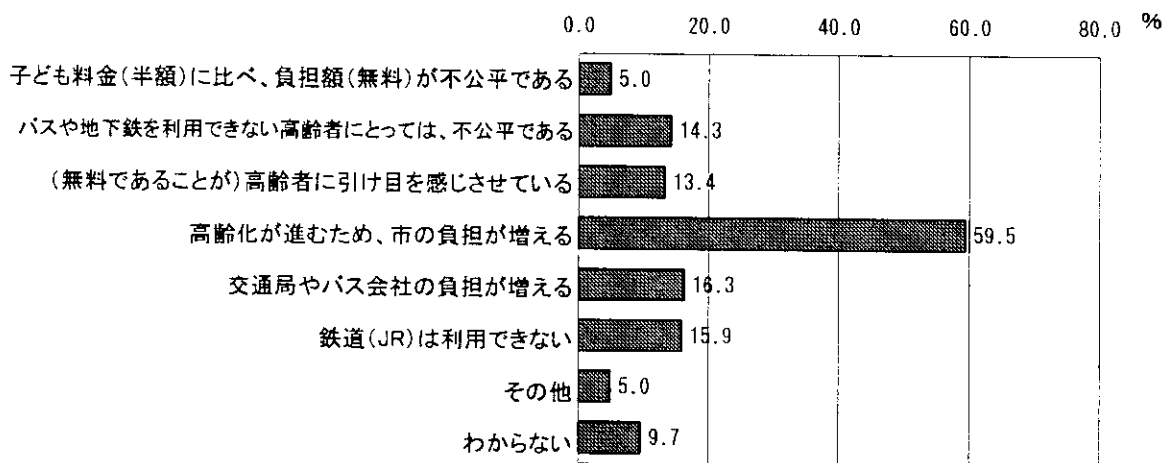


(2) 敬老バスの問題点

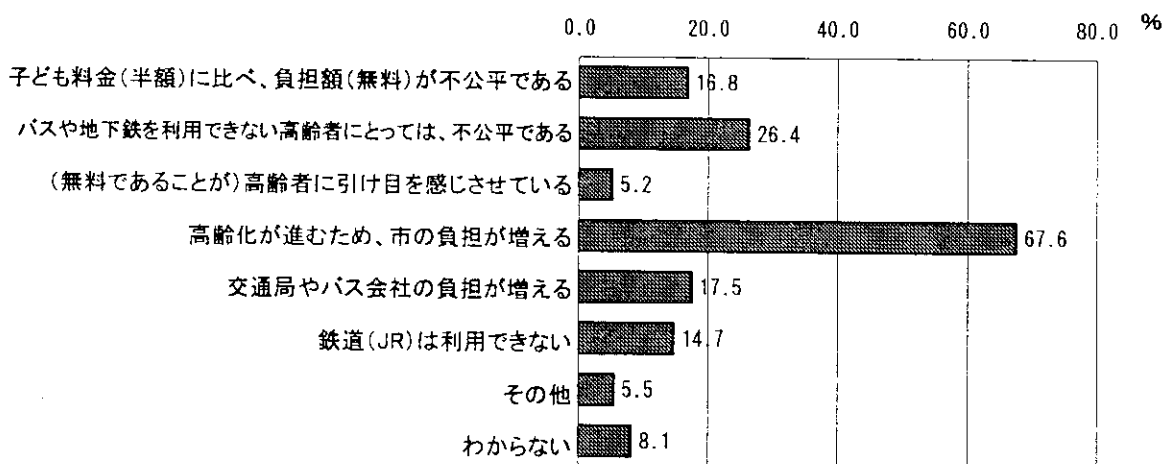
現在の敬老バスの問題点として考えられることについて、70歳以上調査では「高齢化が進むため、市の負担が増える」が最も高く59.5%、次いで「交通局やバス会社の負担が増える」が16.3%、「鉄道(JR)は利用できない」が15.9%、「バスや地下鉄を利用できない高齢者にとっては、不公平である」が14.3%、「(無料であることが)高齢者に引け目を感じさせている」が13.4%となっている。

一方、70歳未満調査では、「高齢化が進むため、市の負担が増える」が最も高く67.6%、次いで「バスや地下鉄を利用できない高齢者にとっては、不公平である」が26.4%となっている。

図II-3 敬老バスの問題点
〔70歳以上調査〕(2つまでの複数回答)



〔70歳未満調査〕(2つまでの複数回答)

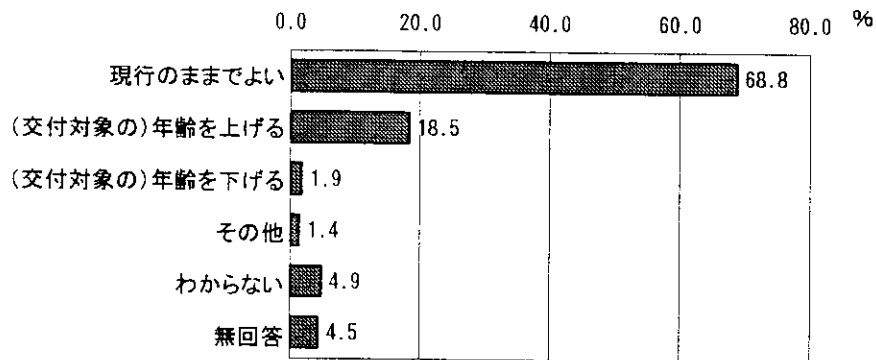


(3) 敬老バスの対象年齢について

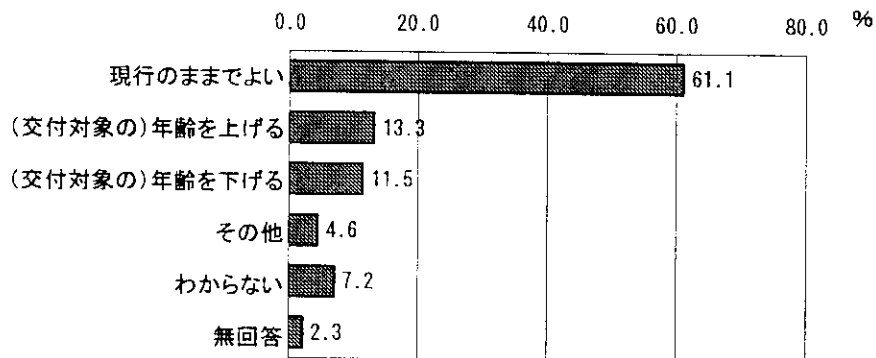
敬老バスの対象年齢（現在の制度では70歳以上）について、70歳以上調査では「現行のままでよい」が最も高く68.8%、次いで「(交付対象の)年齢を上げる」が18.5%となっている。

一方、70歳未満調査では、「現行のままでよい」が最も高く61.1%、次いで「(交付対象の)年齢を上げる」が13.3%、「(交付対象の)年齢を下げる」が11.5%となっている。

図II - 4 敬老バスの対象年齢について
〔70歳以上調査〕



〔70歳未満調査〕

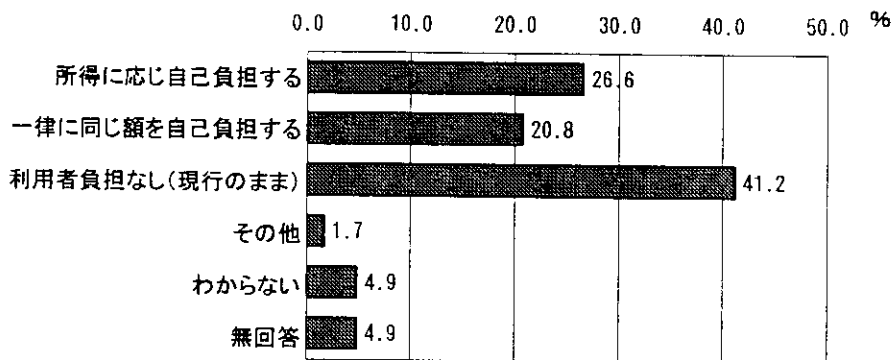


(4) 敬老バス利用者の一部自己負担について

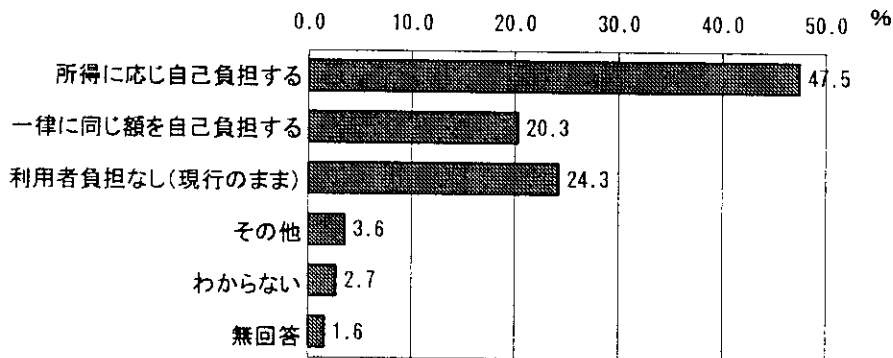
敬老バス利用者の一部自己負担（現在の制度では利用者の自己負担はない）について、70歳以上調査では「利用者負担なし（現行のまま）」が最も高く 41.2%，次いで「所得に応じ自己負担する」が 26.6%，「一律に同じ額を自己負担する」が 20.8%となっている。

一方、70歳未満調査では、「所得に応じ自己負担する」が最も高く 47.5%，次いで「利用者負担なし（現行のまま）」が 24.3%，「一律に同じ額を負担する」が 20.3%となっている。

図II - 5 敬老バス利用者の一部自己負担について
〔70歳以上調査〕



〔70歳未満調査〕

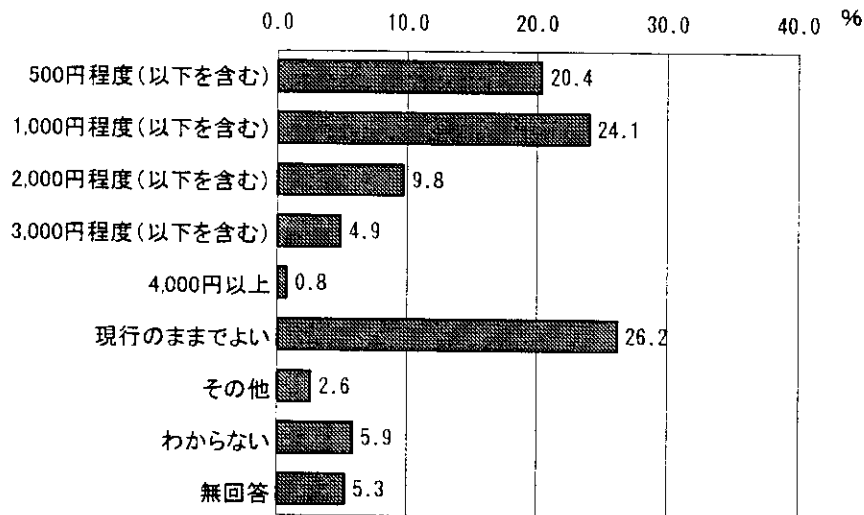


(5) 月平均で負担できる額

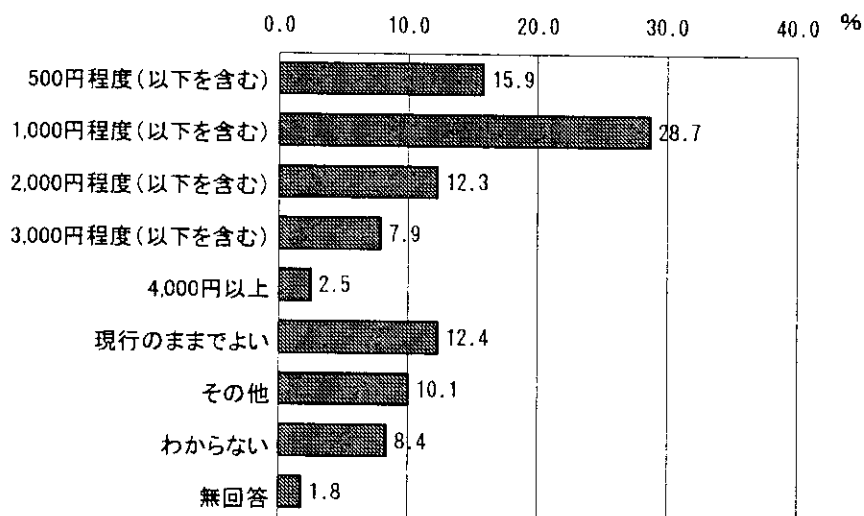
仮に、敬老パス利用者が一部負担を行うとなった場合、月平均で負担してもよいと思う金額について、70歳以上調査では「現行のままでよい」が最も高く26.2%、次いで「1,000円程度（以下を含む）」が24.1%、「500円程度（以下を含む）」が20.4%となっている。

一方、70歳未満調査では、「1,000円程度（以下を含む）」が最も高く28.7%、次いで「500円程度（以下を含む）」が15.9%、「現行のままでよい」が12.4%、「2,000円程度（以下を含む）」が12.3%となっている。

図II - 6 月平均で負担できる額
〔70歳以上調査〕



〔70歳未満調査〕

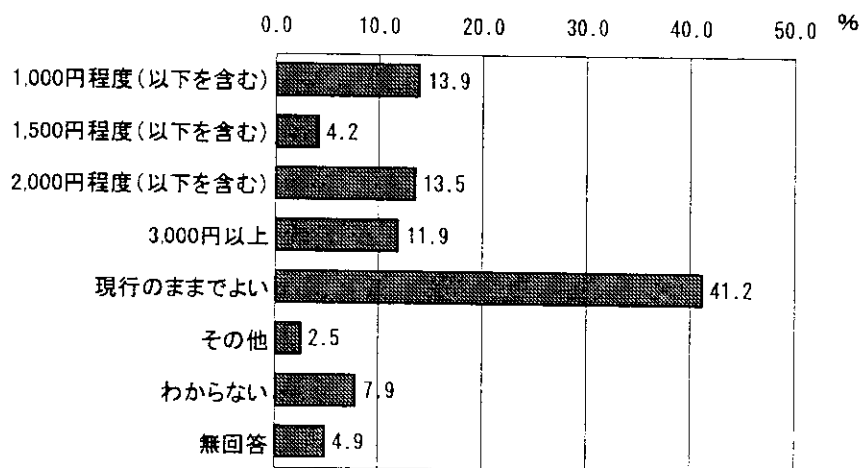


(6) 敬老バスの利用限度額について

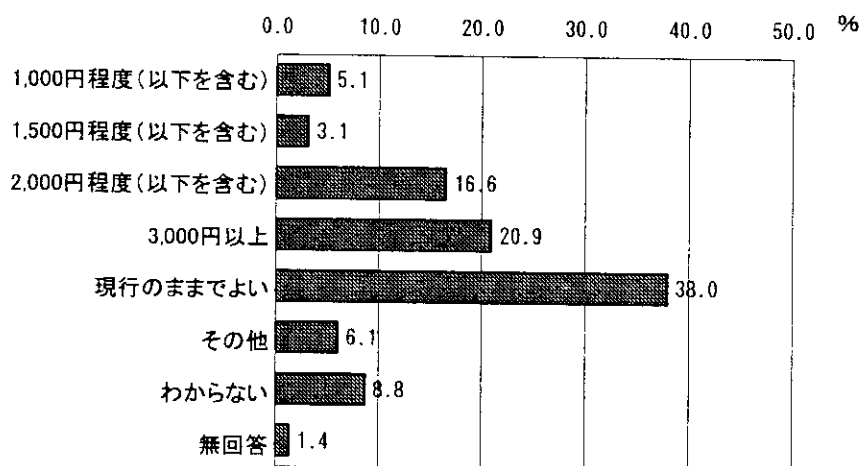
敬老バスの利用限度額（月平均，現在の制度では利用限度額の設定はない）について，70歳以上調査では「現行のままでよい」が最も高く41.2%，次いで「1,000円程度（以下を含む）」が13.9%，「2,000円程度（以下を含む）」が13.5%，「3,000円以上」が11.9%となっている。

一方，70歳未満調査では，「現行のままでよい」が最も高く38.0%，次いで「3,000円以上」が20.9%，「2,000円程度（以下を含む）」が16.6%となっている。

図II-7 敬老バスの利用限度額（月平均）について
〔70歳以上調査〕



〔70歳未満調査〕

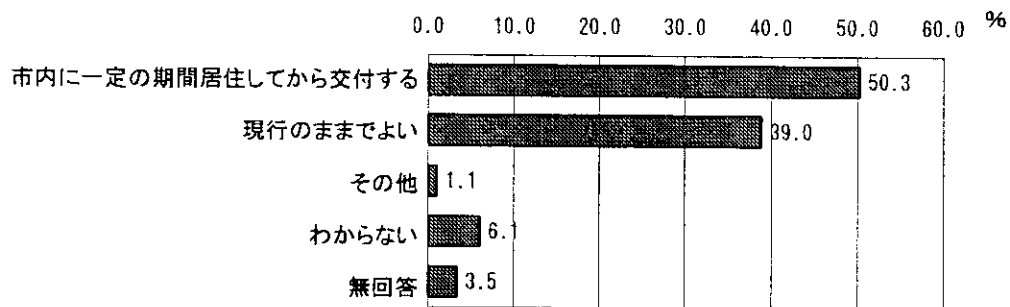


(7) 敬老パスの居住年数による制限について

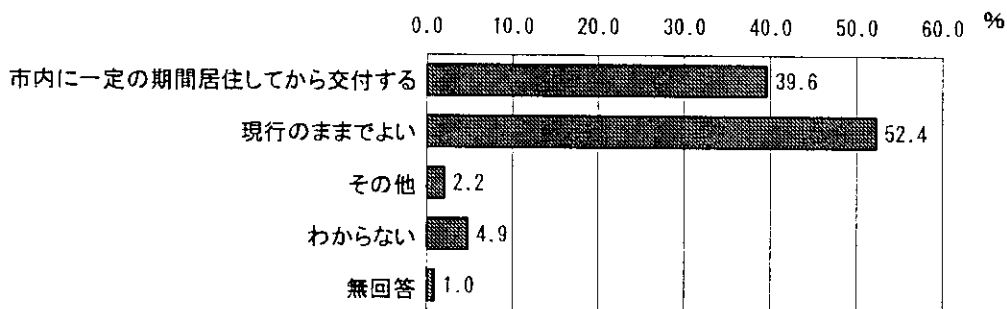
敬老パスの居住年数による制限（現在の制度では居住年数による制限はない）について、70歳以上調査では「市内に一定の期間居住してから交付する」が最も高く50.3%、次いで「現行のままでよい」が39.0%となっている。

一方、70歳未満調査では、「現行のままでよい」が最も高く52.4%、次いで「市内に一定の期間居住してから交付する」が39.6%となっている。

図II-8 敬老パスの居住年数による制限について
〔70歳以上調査〕



〔70歳未満調査〕

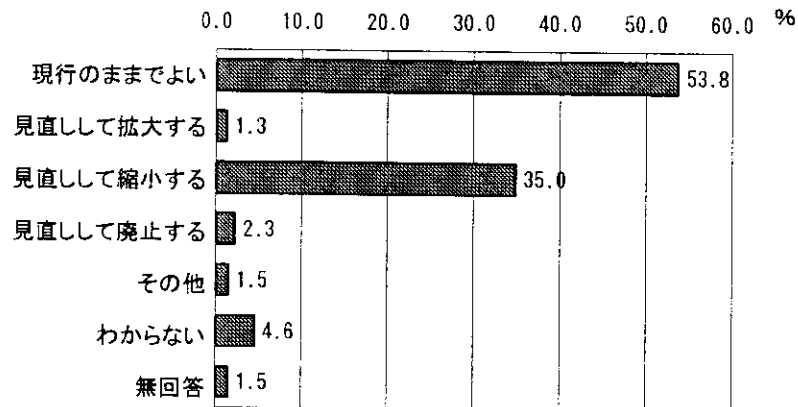


(8) 今後の敬老バス制度について

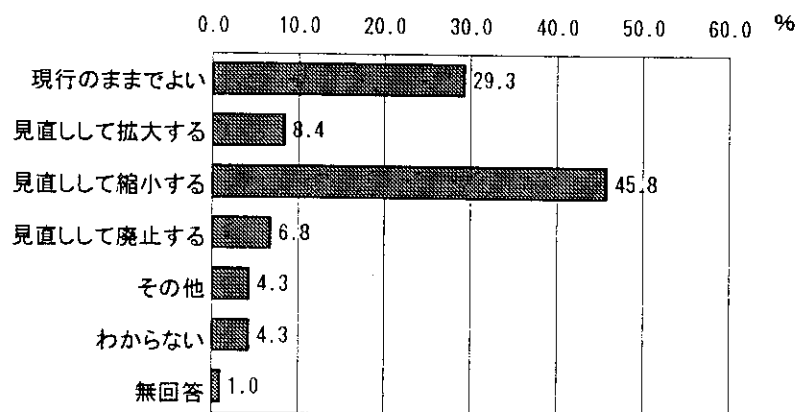
今後、敬老バス制度はどうあるべきと思うかについて、70歳以上調査では「現行のままでよい」が最も高く53.8%、次いで「見直しして縮小する」が35.0%となっている。

一方、70歳未満調査では、「見直しして縮小する」が最も高く45.8%、次いで「現行のままでよい」が29.3%となっている。

図II-9 今後の敬老バス制度について
〔70歳以上調査〕



〔70歳未満調査〕



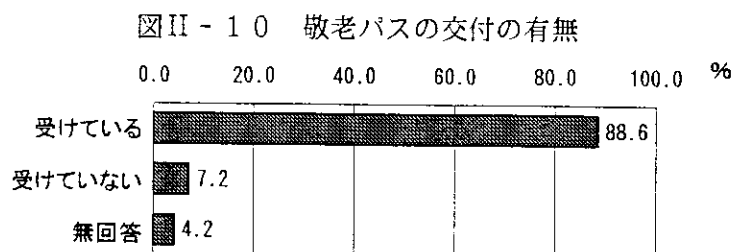
なお、今後の敬老バス制度について「現行のままでよい」と回答した者のうち、3-(3)で「(交付対象の)年齢を上げる」、3-(4)で「所得に応じ自己負担する」「一律に自己負担する」、3-(7)で「市内に一定の期間居住してから交付する」のいずれかに回答した者の割合は、70歳以上調査で57.0%、70歳未満調査で49.1%となっている。

4 敬老パスの利用状況

※ この章は、すべて「70歳以上調査」についての集計結果となっている。

(1) 敬老パスの交付の有無

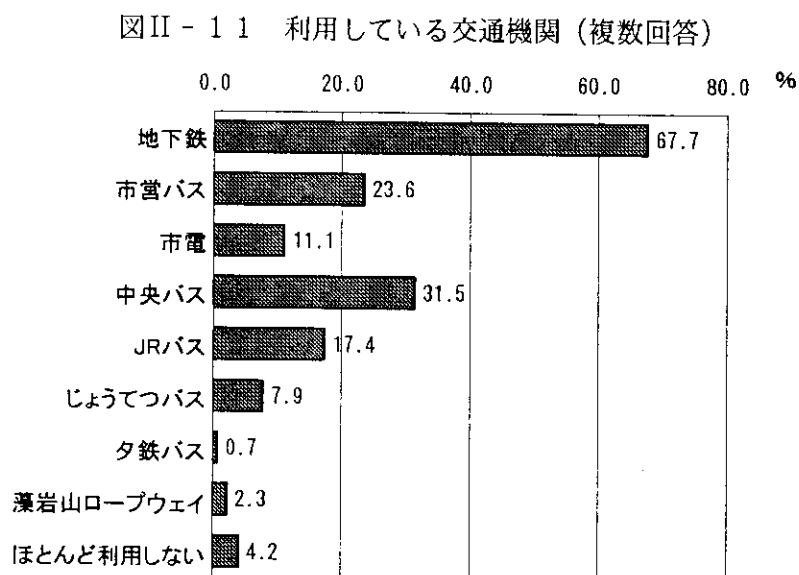
敬老パスの交付の有無については、「受けている」が88.6%、「受けていない」が7.2%となっている。



(2) 交通機関の利用頻度 ※ア～オは、敬老パスを「受けている」と回答した人のみ集計

ア 利用している交通機関

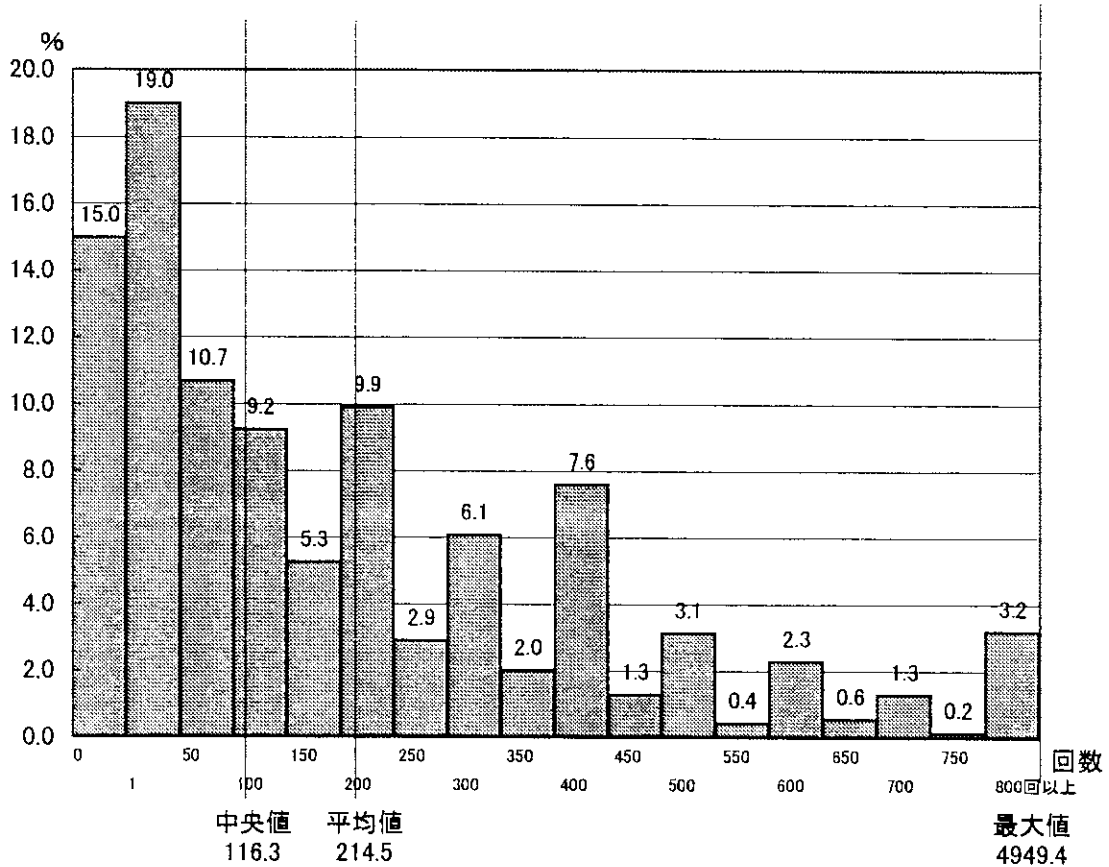
利用している交通機関をみると、「地下鉄」が最も高く67.7%、次いで「中央バス」が31.5%、「市営バス」が23.6%となっている。



イ **利用頻度**

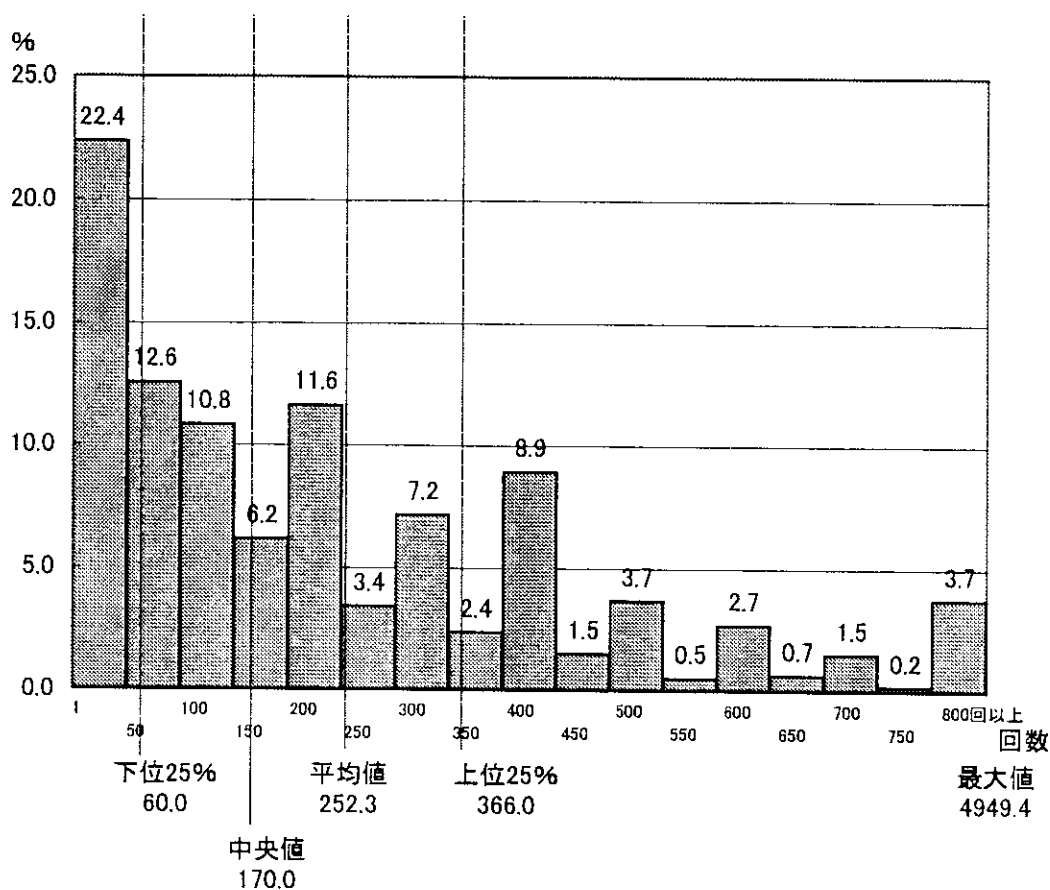
交通機関の利用頻度（年換算）をみると、全体で「1回以上50回未満」が最も高く19.0%、次いで「0回」が15.0%となっており、平均利用回数は214.5回となっている。

図II - 12 交通機関の利用頻度（全体）



また、「0回」を除いた場合の利用頻度は、「1回以上50回未満」が22.4%と最も高く、次いで「50回以上100回未満」が12.6%となっており、平均利用回数は252.3回となっている。

図II - 13 交通機関の利用頻度（全体、「0回」を除く）



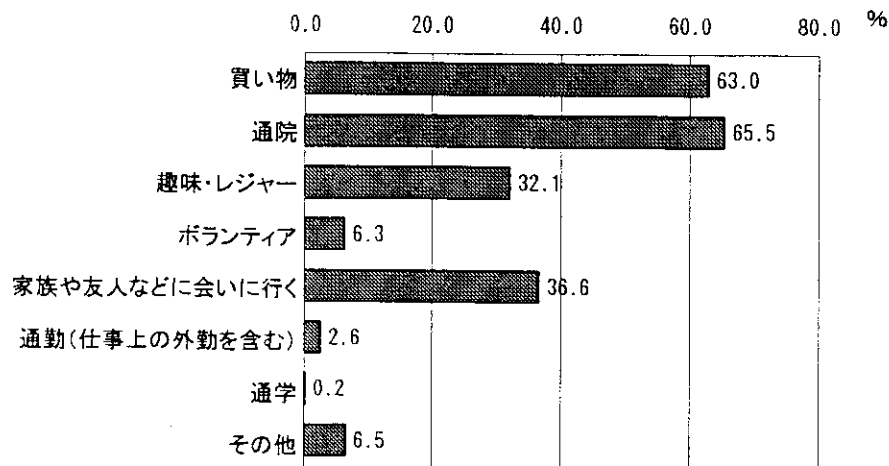
※中央値と平均値

「中央値」とは、あるデータの数値を小さい数値から大きい数値に順番に並べたときに、ちょうど中央にくる値のことであり、「平均値」とは、データを全て合計した数値を件数で割ったものをいう。データが偏った分布を示している場合には、中央値と平均値は異なることがある。

ウ 敬老パスの利用目的

敬老パスの利用目的については、「通院」が最も高く 65.5%、次いで「買い物」が 63.0% となっている。

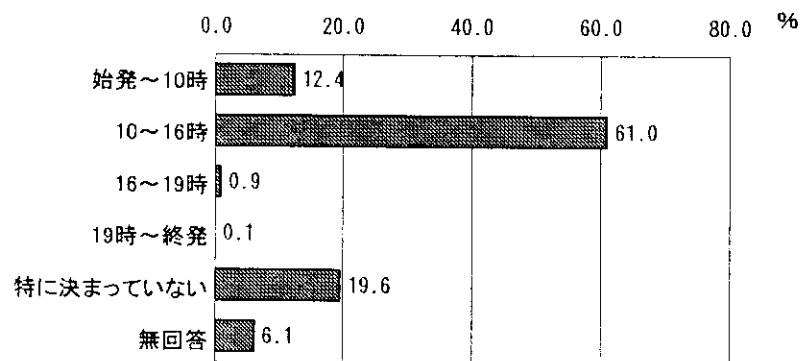
図II - 14 敬老パスの利用目的（複数回答）



エ 敬老パスをおもに使う時間帯

敬老パスをおもに使う時間帯については、「10～16時」が最も高く 61.0%、次いで「特に決まっていない」が 19.6%、「始発～10時」が 12.4% となっている。

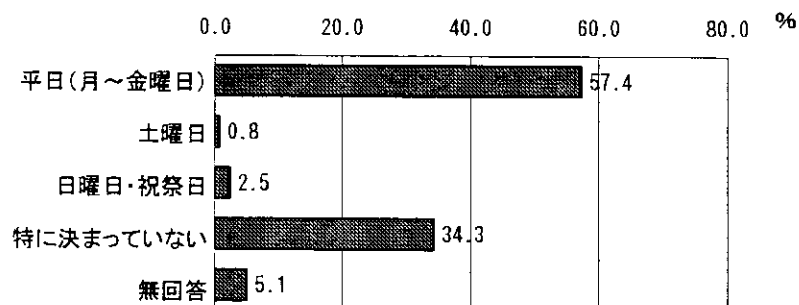
図II - 15 敬老パスをおもに使う時間帯



オ **敬老パスをおもに使う曜日**

敬老パスをおもに使う曜日については、「平日（月～金曜日）」が最も高く 57.4%，次いで「特に決まっていない」が 34.3%となっている。

図II - 16 敬老パスをおもに使う曜日



カ **敬老パスの交付を受けない理由**

敬老パスの交付を「受けていない」と回答した人について、交付を受けない理由をきいたところ、「身体的な事情から利用できないため」が最も高く 56.8%，次いで「タクシーを利用しているため」が 29.5%，「自家用車を利用しているため」が 28.1%，「ほとんど外出をしないため」が 20.5%となっている。

図II - 17 敬老パスの交付を受けない理由（複数回答）

